

平成26年度 法人事業方針

リデルホーム・ライトホーム施設長
中山 泰男

当法人は、リデル女史・ライト女史に倣って、社会福祉の理念を地域の中で実践することが重要と捉えており、法令順守、拡大する法人事業のガバナンス構築など、歴史ある法人としての役割を果たして参ります。今年度は、ことに制度の谷間にある社会的弱者への支援(地域貢献事業)、特別養護老人ホームの待機者解消、地域包括ケアシステムにおける地域対策、福祉人材の育成等を柱に事業を行います。

1. 社会福祉法人の社会的使命と地域に期待される取組

(1) 地域貢献事業（社会福祉第二種社会福祉事業）への取り組み

生活困窮者等を支える仕組みとして、熊本県、熊本県社会福祉協議会、熊本県社会福祉法人経営者協議会との連携による地域貢献事業へ参加を表明致します。これは、年齢・性別・障がい特性等に関係なく、住まいの確保が困難な生活困窮者に対し、生活環境上の課題解決の目途が立つまで一時避難的な定額又は無償にてミドルステイ（中・短期宿泊）を行うものです。

(2) 地域密着型特別養護老人ホーム「ノットホーム」(29床)の開設

平成3年の特養の創設以来24年ぶりとなる入居施設の増床です。平成26年3月16日現在の特養申込者は404名（うち黒髪校区65名）で、要介護度の重度化や認知症によって困難を抱えておられる方々の期待に応えたいと考えています。全ての居室の個室化を貫き、高齢者の尊厳、プライバシーの確保、ユニットケアやノーマライゼーション理念の達成、看取り対応など、家族への配慮も含めて取り組みます。 予算：建設3.36億円、備品1千万円

(3) 地域包括ケアシステムにおける地域対策

① 龍田校区事業所の拠点機能強化

龍田校区には、リデルホーム龍田及びカムさあの両事業所があるものの、包括支援センターの対象校区変更(平成24年4月)に伴って手薄になっていた。今回、居宅介護支援事業所の分室をカムさぁ内に置くことで、地域相談機能が強化され、ひいては黒髪本体事業所との連携を得て、出来る限り自宅や地域で暮らすための支援の形が可能となります。

② ユーカリ苑における個別機能訓練（リハビリ）機能の充実化

昨年より週3日に限定し理学療法士によるリハビリを開始したところ、利用者から大変満足しているとの声が多く寄せられた。さらに利用者のニーズにお答えするべく、3月からリハビリ機器類をメニューへ追加いたしました。今後は、スペース拡大や理学療法士の増員を念頭に事業を行います。

(4) 地域住民、地域資源としての取り組みをさらに推進します。

- ① ふれジョブ活動の支援施設として参加 (毎週一回)
 - ② 地域の交通安全委員として職員を派遣 (毎月一回)
 - ③ 各サロン活動の支援とホール利用の促進
 - ④ 出前講座の開講
 - ⑤ 各種教育施設の実習施設として機能を継続
 - ⑥ 配食弁当の継続 (H25年4月から1人開始 ⇒ 現在3人へ)
 - ⑦ 近隣の小・中学校、児童施設、保育園等との交流事業
 - ⑧ 講義・講演・授業等への職員派遣 (認知症サポーター養成講座を含む)
 - ⑨ リデルライト杯 地域グランドゴルフ大会主催
 - ⑩ リデルライト杯 熊本市老人福祉施設ミニバレーボール大会主催
- その他

2. 養護老人ホームの可能性に関する研究事業

平成19年度から外部サービス利用型特定入所者生活介護事業所の認可を得て介護サービスの提供を行って来ました。ケアマネージャーが身近にいることで入居者や職員にとって利便性の高さが特徴です。しかし介護サービス報酬単価は10%減、措置費は15%減というリスクがあることから、今年度は使い勝手と収入の側面から一般養護との混合モデルを検討いたします。

また、全国経営協「養護老人ホームの在り方検討会」で協議が進められている、通過型自立支援事業も視野に検討を進めます。

3. 社会福祉法人新会計基準への対応

新会計基準に対応すべく、環境整備と業務ルールの見直しを行います。

4. 職員確保 (採用と適材適所)

ノットホームの開設を控え、各種学校及び中途退職者向け講座修了者等へのアプローチをこまめに対応いたします。

また、既存職員の異動においては経験年数や資格、職種への適正等を考慮して行うものとします。

5. 改修工事

建物の維持管理、及び、機能の見直しにかかる事業を次の通り行います。

- | | |
|---------------------|---------|
| (1) 本体屋根防水工事 | 500万円 |
| (2) 駐車場整備工事 | 1,000万円 |
| (3) リデル黒髪事務スペース設置工事 | 200万円 |
| (4) カムさあ浴室改修 | 100万円 |